

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 34 号:2014 年 12 月－2015 年 1 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2014 年のウズベキスタンの GDP 成長率は実績で 8.1%

一方、インフレ率は 6.1%であり、2013 年の水準（およそ 8～8.5%）と比べて低い数字である。国家予算が遂行された結果、GDP 比 0.2%の水準で財政黒字が確保された。貿易収支は 1 億 8,000 万ドルの黒字であったが、これは 2013 年比で著しい減少である。

2014 年の投資は総額 146 億ドルであった。このうち対内投資と対内融資が合わせて 30 億ドル余り（21.0%）で 2013 年比 14.9%の増加であった。対内直接投資は 23 億ドルとなり、2013 年比 10.5%増加した。

2014 年の一年間では、ウズベキスタンにおいて 433 社の合弁企業が新設され、その結果合弁企業の総数は 4,883 社に達した。新規に設立された合弁企業の相当数がタシケント市（297 社）とタシケント州（39 社）に集中している。これらの合弁企業を相手企業の国別で見ると、中国企業との合弁で設立された企業が最も多く 110 社、ついでロシアが 69 社、英国が 42 社、韓国が 36 社、トルコが 29 社、インドとカザフスタンがそれぞれ 16 社であった。事業分野別で見ると、新たに登記された合弁の大部分に相当する 219 社が鉱工業、100 社が商業・飲食業、18 社が建設業、16 社が農業、11 社が輸送・通信業であった。

世界銀行が 2015 年のウズベキスタンの経済成長率を 7.4%と予想

これについては、2015 年 1 月 13 日に公表された報告書「グローバル経済見通し」に述べられている。2014 年 6 月時点では、世界銀行の専門家はウズベキスタンの 2015 年 GDP 成長率を 6.7%と予想していた。世界銀行はウズベキスタンの 2016 年の GDP 成長率もそれまでの 6.7%の予測を上方修正して 8.2%とした。2017 年の GDP 成長率は 8.1%と予測されている。2014 年の GDP 成長率については世界銀行の専門家らは 7.9%と見込んでおり、これも 6 月の予測 7%を上回っている。

国連は、2015 年のウズベキスタンの実質 GDP を 7%と予測

これについては、国連の報告書「2015年の世界の経済情勢と見通し」に述べられている。同報告書によると、2016年のウズベキスタンの経済成長率は6.9%と予想されている。なお、国連の専門家らの試算によれば2014年のGDP成長率は7.5%となった。またインフレ率は2014年に8.8%、2015年と2016年にはいずれも8.5%になる。

ウズベキスタン中央銀行が2015年1月1日、リファイナンス金利を10%から9%へ利下げ

同決定は、2015年の予想インフレ率を受け、経済成長を促すために採択された。中央銀行は、このリファイナンス金利引き下げが銀行の貸出金利を引き下げのための基盤をつくり出すと考えている。とりわけ、生産工場の近代化・設備更新・技術更新、中小企業の振興および少額融資の拡大に関わる諸プログラムの実施に向けられる融資の貸出金利低下が期待される。中央銀行の前回のリファイナンス金利変更は2014年1月1日のことで、年利が12%から10%に引き下げられた。

投資政策

ウズベキスタンと日本が総額38億ドルに上る協定に調印

この協定書パッケージは第12回日本ウズベキスタン経済合同会議に合わせて調印された。これに伴う投資と融資は、電力、石油ガス、化学、紡織・繊維、電気技術、通信、観光、輸送インフラその他の分野に向けられる。

特に、日本の国際協力機構（JICA）は二つの事業の実施に向けて総額148億円に及ぶ借款をウズベキスタンに供与した。このうち電力セクター能力強化事業向けには30億円が供与された。この借款資金の一部はウズベキスタンにおけるコンバインドサイクル・ガスタービン発電設備（タービン2基、各450MW）設計図書の作成に向けられることになっている。もう一つの事業であるアンブハラ水路灌漑システム近代化事業には118億円が供与された。この事業は、アジア開発銀行から財政支援を受けて実施中である。

ウズベキスタンは向こう4年間に総額380億ドルに上る870件の大型投資事業を実施する

これらの事業では、415の企業を新たに設立し、既存の455の生産工場の近代化、設備更新、技術更新を行うことが見込まれている。これらの事業はまた、現在作成中の「2015年～2019年製造業構造改革・近代化・多角化実施策プログラム」の中に含まれることになっている。

現段階では、このプログラムを実施することにより機械製造業、石油ガス化学工業、化学工業、紡織・繊維工業および食品工業の優先的振興が担保されると見られている。

こうして、新たに約 1,000 種類の工業製品の生産に習熟し、5 年間に工業生産高を現在の 1.5 倍に引き上げることができると予想されている。この場合、GDP に占める工業の割合は現在の 24% から 2020 年頃までには 27% に伸びることになる。

この他、国内生産を拡大して輸入を最適化するために「2015 年～2019 年完成品・組立部品・材料現地化ならびに生産プログラム」が現在作成中である。同プログラムは、1,225 種の製品の生産立ち上げを支援することを目的とする 600 の事業を含むことになると期待されている。年間の輸入代替効果は見積りで 35 億ドルになる。

ウズベキスタンでは「2015 年～2019 年農業振興プログラム」が作成中

同プログラムでは、低収量地で綿花作付けから撤退し、空いた土地で果実・野菜、ジャガイモその他の作物を植え付けること、また、集約栽培果樹園を営むことによって、綿花作付面積を段階的に縮小していくことが見込まれている。

同プログラムではまた、品種改良および育種の今後の振興のための措置が講じられることになっている。さらに、農業生産者の機械による技術装備を改善するためにウザグロプロムマシホールディング社の各工場において外国各社と協力してトラクター、最新型綿摘み機、コンバイン収穫機その他の機械の生産ラインを立ち上げることになっている。また、果樹園・ぶどう園の点滴灌漑システムの拡張による節水をはじめとして最新の節水技術の導入に関わる作業が継続される予定である。

同プログラムで想定されている今後の成果の一つに農産物の加工量と輸出量の増大がある。このために、食品工業部門において 391 件の投資事業を実施して最新型冷蔵倉庫を 2,000 棟余り建設し、青果物保管能力を 130 万 t 以上に上げることが見込まれている。同時に、輸送・物流ネットワークの整備が計画されている。

エネルギー・セクター

カンディム・ガス精製処理工場の第一期分の建設については 2018 年に作業に取り掛かるとルクオイルが表明

プロジェクト総額は 26 億 6,200 万ドル。建設工事の請負業者は Hyundai Engineering Co., Ltd. (韓国) になると見られている。国営持株会社ウズベクネフチェガスと LUKOIL Overseas Uzbekistan Ltd. は、2015 年 4 月 1 日までにプロジェクト事業化調査書 (FS) を政府の承認に提出しなければならない。カンディム・ガス精製処理工場のための外部電力供給施設の保障、鉄道輸送インフラおよびアクセス道路の建設に関するしかるべき政府決定が近く下される見込みである。Hyundai Engineering Co., Ltd. はこの他、合成燃料 (GTL - gas to liquid) 生産工場の建設にも参画している。同工場はウズベキスタンのカシュカダリヤ州に置かれ、建設工事は 2017 年 8 月に完了する計画である。

ウズベキスタンとガスプロムが 2015 年 3 月までに第二の生産物分与協定に調印か

ジェル・ガスコンデンセート鉱床（ウスチュルト台地、ウズベキスタン北西部）の開発に関する諸文書が調印されれば、これはガスプロムがウズベキスタンで実施する第二の生産物分与協定（PSA）になる。ガスプロムは 2004 年 8 月、ウスチュルト台地のシャフパフティ鉱床において PSA 条件で天然ガスの採掘に着手した。この鉱床はフル操業時の生産能力が 5 億 m³/年と評価されており、PSA の有効期間は 15 年である。シャフパフティにおけるガス累積生産量は現時点でほぼ 30 億 m³である。

ウズベキスタンは 2020 年頃までに 19 の水力発電所を近代化する計画である

同計画を完遂すれば、これらの発電所の設備容量は合わせて 118.5MW 増え、発電量は 6 億 kW 増加する。これは天然ガス 2 億 5,000 万 m³の節約になると期待されている。国営株式会社ウズベクエネルギーも現在、発電施設の新設、既存施設の近代化・改修に関する 28 の大型投資プロジェクトを引き続き実施している。これらのプロジェクトは、コンバインドサイクル・ガスタービンを用いて発電して熱を回収するコンバインドサイクル技術を導入すること、既存の石炭火力発電所の改修と既存の水力発電所の近代化・改修によって燃料エネルギーバランスにおける固形燃料と水力発電資源の割合を引き上げることを見込んでいる。また、電力不足に悩む需要地に送電するために送電線と超高压変電所の建設が進められている。

ナヴォイ鉱山精錬コンビナートが 2014 年にウランを 2.6%増産

ウランの生産量はこの 10 年間毎年増大している。2014 年の生産の伸びは 2008 年比 145.5%であった。ウラン生産の鉱物原料基盤を形成するのは 20 の鉱床と 10 の有望区域である。

CNPC と国営持株会社ウズベクネフチェガスが中央アジア-中国ガスパイプライン・ウズベキスタン区間第 4 線の費用を 8 億ドルと評価

この新線の建設は 2015 年下半期に着工される。総延長約 200km のこの新区間は中央アジア-中国ガスパイプライン・システムにおける最短分岐線となる。第 4 線は、ウズベキスタン国土における既存のガスパイプラインインフラとタジキスタンですでに建設が始まっている区間を結びつけるものである。この設備能力の強化によって 中央アジア-中国ガスパイプラインの輸送能力は増強され 850 億 m³となる。

輸送セクター

ウズベキスタンは 2015 年末までに中国から 10 台の機関車を受領へ

国営合資会社ウズベキスタン鉄道が CNTIC と CNR DLRC の中国コンソーシアムと貨物機関車 10 台の供給契約に調印した。契約総額は 4500 万ドル。これらの機関車はウズベ

キスタンの中央部と東部を結ぶ鉄道線路で運行されることになる。契約で必要とされる資金は中国輸出入銀行からの融資で賄われる。

これとは別に、中国コンソーシアムは 2013 年 12 月、国営合資会社ウズベキスタン鉄道 (OTY) 向けに 11 台の電気機関車の納入を完了した。この契約の費用 4,440 万ドルのうち、4,200 万ドルも中国輸出入銀行からの融資で調達され、残りは OTY が自己資金を原資にして負担した。OTY はこの 10 年間で 23 台の貨物電気機関車と 15 台の旅客機関車を中国から購入し、その合計費用は約 1 億 5,000 万ドルとなっている。

国営合資会社ウズベキスタン鉄道 (OTY) は 2015 年、6 億 7,270 万ドルの投資を計画

2014 年比 15% の伸びであり、投資対象は、鉄道路線の新規建設、既存鉄道路線の近代化に関わる各種事業である。投資の資金源は、OTY の自己資金 3 億 5,850 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金からの借入金 1 億 5,050 万ドル、外国からの借入金 1 億 6,370 万ドルである。とりわけ、OTY は 2015 年、総延長 594km に及ぶ 3 つの鉄道区間、即ち、ウズベキスタン南部の「マロカンド-カルシ」路線および「カルシ-テルメズ」路線ならびにウズベキスタン東部のカムチク峠を縦断する新設の「アングレン-パップ」電化路線の電化を引き続き推進する。貨車の復旧、貨車および旅客車の新規製造に関わる諸事業も引き続き実施される。

ウズベキスタンが自動車道と鉄道ならびに物流センターの建設に 100 億ドルの投資を計画

「2015 年～2019 年生産インフラ整備・近代化プログラム」枠内で見込まれており、アングレン-パップ、マロカンド-カルシ、カルシ-テルメズ、マロカンド-ブハラの各方面をはじめとする鉄道路線の整備・電化に関する 13 の投資事業は政府の特別管理の下で実施されることになる。また、ウズベキスタン自動車国道の 1,800km の区間の改修、カルシ、コーカンド、タシケント、ブハラ、グリスタンの各都市のバイパス道路の新設、さらに地方道の近代化を行う計画である。

その他のセクター

中国国家開発銀行がウズベキスタンにおけるインターネット速度増強事業の実施に 1 億ドルを供与

この他、事業当事者とウズベキスタン政府が 1,760 万ドルを拠出する。これによって、インターネットバックボーンネットワークのデータ伝送容量が国際回線で 10 倍 (100Gbps まで)、各州都までは 4 倍 (40Gbps まで)、各地区中心地までは 10 倍 (10Gbps まで) にそれぞれ増強されると期待されている。

ウズベキスタンでは工費 4 億 4,000 万ドルで化学コンビナートが新設される。

同事業は株式会社ナヴォイアゾトによって実施され、建設が予定されているコンビナートではポリ塩化ビニール（PVC）、苛性ソーダおよびメタノールの生産が予定されている。同事業は現在、プレフィジビリティスタディ（Pre-FS）が承認された段階にある。ナヴォイアゾトと国営株式会社ウズキミヨサノアトの話し合いの結果、China CAMC Engineering Co との間で総額 4 億 3,980 万ドルの契約が締結された。コンビナートの生産設備能力は PVC10 万 t / 年、苛性ソーダ 7 万 5,000 t / 年およびメタノール 30 万 t / 年である。ウズベキスタン復興開発基金は 6,597 万ドルのローンを供与する。事業資金調達のため、さらに 3 億 7,383 万ドルの長期対内融資を呼び込むことが計画されている。

ナヴォイ自由産業経済特区では 2015 年 12 月、携帯電話、タブレット、ノートブックおよびテレビの生産がスタートする

ウズベキスタン側のパートナーは中国社 Poyang Shansung Comers Co, Ltd. である。設備能力は製品 110 万台 / 年。この事業の総投資額は約 380 万ドルである。